# 平成２９年度　新富町立上新田小学校　評価書

新富町立上新田小学校　校長　高田　康史

〈評定〉４…期待以上　　３…ほぼ期待どおり　　２…やや期待を下回る　　１…改善を要する

| 目　　標 | 自　　己　　評　　価 | | | 学校関係者評価委員の評価 |
|---|---|---|---|---|
| | 評　　価　　内　　容 | 評定 | 成果…○　　課題…●　　改善策…※ | 成果…○　　課題…● |
| 目標１<br><br>学力の向上<br><br>○　基礎学力の定着と指導の工夫改善により学力向上をめざす。 | ○　キャリア教育の視点で、日常の授業の工夫改善を図り、カリキュラムマネジメントを意識した教育活動の展開を図る。 | 2.9 | ○　児童のキャリア発達を促すための重点目標を立て、重点目標を意識してカリキュラムマネジメントを行うことで、教科等の横断的、継続的な指導を行うことができた。<br>●　２年間の研究を通して積み上げた内容を、次年度以降も継続していく必要がある。<br>※　小学校と中学校のそれぞれの研究内容から、共通実践へとつなげ、児童生徒のキャリア発達を支援していく。 | 〈評定〉…3.3<br><br>○　本校のキャリア教育を中心とした研究実践により、子ども達が内面的に成長している様子がよく分かる。<br><br>○　１年生の子どもが、「校長先生、夢をもたせてくれてありがとう。」という手紙をくれた。そのことからも、本校のキャリア教育の成果が十分に現れていることがよく分かる。<br><br>○　児童数が少ないという本校の特性を生かして、様々なことの指導が徹底している。<br><br>○　子ども達に「わくわく感」を感じ取らせることはとても大切である。そのためには、今後も、「～しなくてはいけない。」ではなく、「～なりたい。」と思って行動することができる子ども達を育てていってほしい。<br><br>●　本校の子ども達は、多くの人達の前で表現する力に課題があるので、ぜひ伸ばしてほしい。 |
| | ○　上新田小中一貫校へつながるわくわくした教育活動の創造・工夫・展開を図る。 | 2.9 | ○　児童の興味・関心を高めるような工夫された教育活動が増えた。<br>※　次年度も、友達や教師と一緒に活動する教育活動を重視し、児童が成長することのわくわく感を感じ取ることができるようにしていく。 | |
| | ○　各教科の基礎的・基本的内容の定着を図り、「わかる・できる」まで教える指導を徹底する。 | 2.7 | ○　ＣＲＴの結果を基に指導改善計画を立て、学年のまとめに生かすことができた。<br>○　５・６年生は朝の時間や昼休み時間を活用して、少人数指導を行い、学習内容の理解と定着を図った。<br>○　国語科・算数科・社会科の教科コンテストを実施した。<br>●　習熟度の低い児童に対して、個別指導を行う場を設定するのが難しい。<br>※　さらに、「わかる授業」の徹底を図る。 | |
| | ○　Ｗｅｂ単元学習等の活用を推進するとともに、活用の仕方について常に工夫をする。<br>・ＣＲＴで全国平均を上回る。 | 2.7 | ○　計画通り実施し、やり直しも徹底してできている。担当職員から、誤答や無答の多い問題を指摘してもらい、指導に生かしている。<br>○　全学年の国語の全国平均…101.8<br>○　全学年の算数の全国平均…103.7 | |
| | ○　本に親しむ場や時間を計画的に設定し、児童が進んで読書をする機会を増やす。<br>・週に１度以上本を借りる児童８０％以上をめざす。 | 3.0 | ○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約８８％であった。（昨年度…約６６％）<br>○　図書委員会の「読書郵便」の企画により、児童の読書への興味・関心が高まった。<br>○　３年生が、新入児に読み聞かせを行った。<br>●　家庭での読書の取組が十分ではない。<br>※　さらに、「ファミリー読書週間」の啓発を図る。 | |
| | ○　「家庭での学習の仕方」を活用し、家庭と連携しながら家庭学習の充実を図る。<br>・自分から進んで家庭学習に取り組む児童８０％以上をめざす。 | 2.9 | ○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約８３％であった。（昨年度…約８４％）児童は、自ら進んで家庭学習に取り組んでいると言える。 | |

| 目　　標 | 自　　己　　評　　価 | | | 学校関係者評価委員の評価 |
|---|---|---|---|---|
| | 評　　価　　内　　容 | 評定 | 成果…○　　課題…●　　改善策…※ | 成果…○　　課題…● |
| 目標２<br><br>人間力の向上<br><br>○　望ましい生活習慣の定着とよりよい人間関係づくりを推進する。 | ○　「凡事徹底」を踏まえ、当たり前のことを当たり前に徹底して行おうとする意識を高める。 | 2.9 | ○　「凡事徹底」の合い言葉が児童に浸透しており、意識して行動できる児童が増えてきた。<br>○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約８４％であった。（昨年度…約８８％）<br>●　個別に指導を要する児童も少数ながら見られる。<br>※　今後も場面に応じて継続的に指導していく。 | 〈評定〉…3.2<br><br>○　子ども達が、とても落ち着いている。 |
| | ○　学校全体、各学級で「自分もＯＫ　相手もＯＫ」を意識させる指導を計画的に行う。<br>・「自分もＯＫ　相手もＯＫ」を常に意識して行動していると自覚している児童８０％以上をめざす。 | 2.6 | ○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約８３％であった。（昨年度…約８９％）<br>●　個別に指導を要する児童も少数ながら見られる。<br>※　今後も場面に応じて継続的に指導していく。 | ○　子ども達の地域での挨拶はとてもよい。ただし、グループでいる時は、元気に挨拶ができても、一人でいる時はなかなかできない場面もあるので、地域の大人から挨拶の声をかけるようにしていきたい。 |
| | ○　気持ちのよい挨拶や返事でコミュニケーション力を育てる。<br>・自分から元気よく挨拶をしたり、返事をしたりする児童８０％以上をめざす。 | 2.6 | ○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約９１％であった。（昨年度…約８３％）<br>●　個別に指導を要する児童も少数ながら見られる。<br>※　今後も場面に応じて継続的に指導していく。 | ●　「自分もＯＫ　相手もＯＫ」は、とてもよい合い言葉だと思う。先生方で、どこまで子ども達の成長をめざすのかを共通理解していくことが大切である。 |
| | ○　教師全員の目で、常にトイレのスリッパの並びを確認する。<br>・トイレのスリッパをきちんと並べることができる児童９０％以上ををめざす。 | 3.1 | ○　児童アンケートの結果によると、「Ａ　よくできた」と「Ｂ　できた」を合わせた児童の割合は、約９３％であった。（昨年度…約９０％）<br>※　今後も継続的に指導していく。 | ●　いじめの問題が起こらないように今後も注意深く見守ってほしい。 |
| | ○　称賛と承認の場を全校や各学級で意図的に設定し、自尊感情を育て、いじめや不登校を未然に防ぐようにする。<br>・いじめや不登校の発生件数０をめざす。 | 3.0 | ○　きめ細かな指導と見届けで、重大ないじめや不登校はなかった。<br>※　今後も、「いじめの見逃し０、いじめの解消１００％」をめざす。 | |

| 目　　標 | 自　　己　　評　　価 | | | 学校関係者評価委員の評価 |
|---|---|---|---|---|
| | 評　　価　　内　　容 | 評定 | 成果…○　　課題…●　　改善策…※ | 成果…○　　課題…● |
| 目標３<br><br>健康・体力の向上<br><br>○　安全で健康的な生活の習慣化と体力の向上をめざす。 | ○　「立腰」指導を行い、よい姿勢を常に意識させるとともに、やる気や集中力、持続力を高め、心と体の健康を高める。 | 2.8 | ○　朝の全校一斉立腰タイムと、帰りの会での「立腰」指導を実施することができた。<br>●　授業中の姿勢が課題である児童が見られる。<br>※　次年度も、「立腰」指導を継続していく。 | 〈評定〉…3.3<br><br>○　子ども達がくじけそうになった時に、それに負けない力を身に付けさせていくことは、とても大切である。そのために、人との競争ではなく、自分の目標を達成するために努力しているのだということをしっかりと理解させる取組や自己肯定感を高めていく取組は大変有効である。<br><br>●　職員の健康保持のために、一層働き方改革を推進してほしい。そのためには、地域の人達の力を活用する方法もある。学校が、広範囲にチーム化していく取組を期待したい。<br><br>●　今後は、学校現場でも、トランスジェンダーの子ども達に対応した手立てを考えていく必要がある。 |
| | ○　「げんきカード」で児童の実態を把握し、健康的な生活習慣の指導に努める。 | 3.0 | ○　「げんきカード」により児童の実態を把握し、個別指導を行った。<br>※　就寝時刻については、継続して個別指導を行っていく。 | |
| | ○　歯に対する関心を高め、指導を実施する。<br>・歯科受診率７０％以上をめざす。 | 2.6 | ○　歯科受診率は、約６５％であった。（昨年度…約６７％）<br>○　歯科受診率が１００％の学年もあった。<br>※　歯と口の健康教室により、個別指導を継続していく。 | |
| | ○　天気のよい日には、積極的に外に出て遊ばせる。<br>・体育委員会で企画し、全校で遊ぶ日を学期１回実施する。 | 3.1 | ○　曜日を決めて、昼休み時間にサッカーコートを使用できるようにしたことで、全学年の児童が遊べるようになった。<br>○　体育委員会で企画し、全校で遊ぶ日を学期１回実施することができた。<br>※　次年度も、全校で遊ぶ日を継続していきたい。 | |
| | ○　給食の時間や「弁当の日」を通して、食べ物を大切にする心を育てる。<br>・毎月、「０」のつく日を「残菜０の日」として呼びかける。<br>・「弁当の日」の参加率１００％をめざす。 | 3.1 | ○　「残菜０の日」が２８日（３／９現在）あった。（昨年度…６日）<br>○　「弁当の日」の参加率は、ほぼ１００％であった。（昨年度同様）<br>※　「弁当の日」についての掲示資料を作成し、さらに意識を高める。 | |
| | ○　「自分の命は自分で守る」という意識を高める。<br>・朝の時間や清掃時間等を活用したシェイクアウトを学期１回実施する。 | 3.0 | ○　朝の時間や清掃時間等を活用したシェイクアウトを学期１回実施することができた。<br>○　ミサイル対応の避難訓練を実施することができた。 | |